

稚内北星学園大学 2017 年度卒業式・式辞

本日、晴れて卒業を迎えられたみなさん、おめでとうございます。卒業生のご家族や関係者のみなさまにも、お喜びを申し上げます。ご来賓として臨席を賜りました稚内市長をはじめ、地域の方々、そして教職員・在校生ともども、皆さんの門出を心からお祝い申し上げます。

ここ 1 週間ほどは寒気も緩み、春のぬくもりを感じることもありました。この冬全体は、厳しい天候と危険な路面状況が続きました。暴風雪によって本学が休校・閉鎖措置をとった回数も、過去最高です。こうした異常気象は、稚内だけでなく、日本全国で、しかも年間を通じて、人々の生活に混乱をもたらしました。気候変動に翻弄される事態は、これからも続くのかもしれない。

以上は自然環境のことですが、社会環境の変化も、私たちの生活に混乱や不安をもたらすものになりかねません。つまり、みなさんが働き、結婚し、子育てし、時に病に伏し、齢を重ねていくこれからのライフステージは、必ずしも安穩としたものではないということです。適切に選択し、機敏に行動し、場合によっては闘うことが必要となるでしょう。

そこで、この場で、みなさんにはなむけの言葉として贈りたいのは、そうした困難を乗り越えて生きるために必要なことを、みなさんがいかにして学んだか、ということです。

最近まで流されていた、ある携帯電話キャリアのテレビ CM に、「学んだことは誰にも奪われないから」という台詞がありました。「おまえは勉強が好きなんだから、進学しろ」というストーリーの中で使われた台詞です。

お金やモノは、奪われる可能性があります。しかし、“身に付けた知”は奪われることなく、必要に応じて生かすことができます。もちろん、お金もモノも失わなければそれに越したことはないのですが、いずれにせよ、いざというときに、困難を乗り越えるために力を発揮するのが、身に付けた知識や知恵です。

「知は力なり」というフレーズを残したのは、400 年ほど前のイギリスの哲学者、フランシス・ベーコンだとされています。この言葉は、科学的な認識あるいは経験によって試された「知」は現実に対する力を持ち得るのだ、それくらいの意味です。この思想が科学技術万歳とか、人間は自然を支配するのだ、といった“驕り”に結びついてしまうと、たとえば原発災害のようなものになってしまうのかもしれませんが、とりあえずここでは、一人一人の生き方というレベルで、この「知は力なり」を受け止めてください。

知が経験に裏打ちされて力になるためには、そもそも、知識や知恵や思想を学ばなけれ

ばなりませんし、それに加えて、経験や実践を積まなければなりません。「知っている」だけでは不十分だし、また経験に頼るだけでも足りないのです。知を現実にかすリンクのさせ方を身に付けることが大切です。

「大学生の半数以上が、読書時間ゼロ」という最近の調査結果を受けて、新聞のコラムに美輪明宏さんのこんな言葉が紹介されていました。

「あつという間に得た情報はあつという間に忘れる。本を読んだり辞書を引いたり手間ひまかけて覚えたことは忘れにくい」

本を読むのも、辞書を引くのもとてももちろん大切なことですが、“手間ひまかける”という意味では、みなさんには「地域の中で学ぶ」という経験がありました。課題を設定し、下調べをし、議論し、話を聞き、編集し、表現する。

たとえば小中学生への学習支援では、広く教育問題に関する学問的な議論にも苦勞しながら取り組み、学習支援という活動そのものの社会的意味を理解した上で実践に臨みました。

またたとえばコーヒーフェスティバルでは、稚内にとってのコーヒーの歴史的意味について知り、コーヒーと健康との関連についても学ぶなどの下準備を基礎に、企画運営に取り組みました。

映像制作においては、樺太にせよ、豊富にせよ、地域の抱えている課題や歴史的な経緯を調べた上で課題設定を行い、さまざまな場所に足を運び、さまざまな人の話を聞き、そうした取材の過程でまた問題意識を深めていきました。

ほかにも、中央商店街の実態調査、プロジェクトアート、子どもの貧困対策プロジェクトや子ども食堂等々の活動にも、同様の学びがあったはずです。

理論的な学びと実践的な学びの相互作用の中でみなさんは成長しました。そしてそこには、仲間との議論が混迷したり、関係機関との調整が面倒だったり、支援や取材や営業の相手になかなか話が通じなかったり、あるいは逆に迷惑をかけてしまったり、といったさまざまな苦勞や失敗が伴っていたと思います。しかしそれを乗り越えるプロセスで、みなさんの現実の困難を乗り越える力、知の力は鍛えられました。

みなさんが本学で、この地域で学んだことは、誰にも奪われない自分の財産として生き続けます。またみなさんはこの4年間で、学び方を学びました。分からないことがあったり、解決すべき課題に遭遇したときには、自分で調べ、根拠が不明なことならについては簡単に信じることはありませんし、「みんなが言っているから」というような理由で鵜呑みにすることもなく、自分なりに、あるいは仲間と議論しながら考えることができます。ど

うぞこれからも、そのように学び続けてください。

若年人口の減少によって人手不足が深まり、売り手市場となっていますが、一方で、20～30年後には、AIやロボットによって人間の仕事の半分近くは失われるという予測もあります。

みなさんは、情報メディアを体系的に学びました。社会の変化に適応するだけでなく、社会のために役立つ仕事を生み出す側に立ってます。そういう意味でも「知を力」にしてください。

留学生の方へ。異国の地で、言葉や文化の壁を乗り越えて、よく学んでこられました。また、夜間主クラスで学ばれた社会人の方は、仕事を続けながらの単位取得、ご苦労が多かったことと思います。

ただ、ここで伝えたいことは、ほかの卒業生に対してと、同じです。社会環境の変動に耐えうるような知を、あるいはそれにさらに磨きをかけるような知のスキルを身に付けたという自信をもって、それを生活に、生きることに生かして行ってください。

ご来賓のみなさまを始め、地域のみなさま、これまでの本学学生へのご理解とご支援に深く感謝申し上げます。今後ともどうか、彼らを見守ってくださるようお願いいたします。

卒業生のみなさん、改めまして、皆さんのこれからの人生が実り多い、幸福なものでありますよう心から祈念して、私の式辞といたします。本日は、誠におめでとうございます。

2018年3月17日

稚内北星学園大学 学長・斉藤吉広